

---

○議長（渡辺文彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後1時00分）

---

◇ 鈴木 茂 孝 君

○議長（渡辺文彦君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、鈴木茂孝君。

（2番 鈴木茂孝君 登壇）

○2番（鈴木茂孝君） それでは、通告に従いまして、壇上より一般質問をさせていただきます。

『さあ、新しい松崎へ』のフレーズを掲げた深澤町政が始まりました。

町長選挙には多くの方が関心を示し、何より今まで町政にはあまり関心がないと思われていた若い世代が、大きく動きました。まさに、松崎の底力を示した選挙だったと思います。

しかし、これからが本番です。

町民の方々の声を聞き、対話し、行動していく。そして、行政と議会が、力を合わせ、知恵を出し合い、話し合える町。そこに向かって、今まで以上に大きな責任と覚悟を持って、議員として努力していきたいと考えております。

今回の一般質問の一つ目は、岩科診療所についてです。

町長は、選挙のときより『岩科診療所について見直す』という考えを示しております。

しかし、高齢化が進む我が町にとって、医療は非常に重要な問題であります。どのような考えで、見直していくのか伺います。

次に、関係人口を増やす背策について伺います。松崎町の高齢化率は、48.9%で県下4位。平成27年から令和2年の人口減少率は、11.7%で県下5位となっています。

町長は、選挙の際に『移り住みたい町、日本一』にして人口減少を解消する。とおっしゃっていましたが、どのような政策があるかお聞きします。

三つ目のコロナ対策についてです。

今後も経済対策などで、発行されるプレミアム商品券についての地域通貨の活用また、子供のコロナ対策について、大人は飲食などで制限は緩和されている一方で、子供は給食時、相変わらずの前を向いて黙食を続けていることについて、どのように考えるか。などについて

て伺います。

以上、壇上よりの質問とさせていただきます。

(町長 深澤準弥君 登壇)

○町長(深澤準弥君) 鈴木議員の質問に回答させていただきます。

一番岩科診療所の今後について。

①診療所の開設を見直すということだが、診療所そのものの必要性から見直すということか、

建設場所について見直すということか。という質問でございます。

高柳議員の質問にも回答させていただきましたが、岩科診療所を多額の予算を使って建設すべきかどうかというような、その必要性を検証するためには、もう少し議論を要する必要があると考えております。

気軽に受診できるかかりつけ医の存在は、子供や高齢者にとっては、大変重要な医療機関であることも十分認識しておりますので、地域の意見を汲み取り、本当に診療所が必要なのか、場所はどこが良いのか。また、町で単独で取り組むべきことなのか、少し広域でエリアを考え、取り組んだ方がいいのかなど、課題をしっかりと把握し見直しをしていきたいと考えてございます。

②番、町民、特に岩科地区の住民には、今後の地域医療についてきちんと方向性を示し、説明する場を設ける必要があると考えるが、その考えはあるか。という質問でございます。

住民の意見を丁寧に聞き、慎重に方向性を決めるためには、岩科地区に限らず議員の皆様をはじめ、広く意見を聞くことが重要であると考えております。そのために、説明会等が必要だと判断すれば、当然検討していきたいと考えております。

③地域の公民館などにお医者さんが出向く過疎地医療について、検討していく必要があると考えるかどうか。という質問です。

県において、中山間地域の医療機関連携強化を推進するため、オンラインによる健康医療相談のモデル事業を実施しております。これは、かかりつけ病院の医師と中山間地域に住む患者をオンラインで繋ぎ、健康医療相談を実施するもので、看護師等がICT機器いわゆるタブレット端末等を携行し、巡回診療先として公民館や患者の自宅を訪問し実施するものです。直接医師が訪問する訪問診療に加え、こうしたICTを活用した診療も進んでいけば、移動が困難な高齢者の診療等にも大変有効なものとなりますので、県、町、医療機関等が連

携して推進していければと考えております。

大きい2番。関係人口を増やす施策について。

①松崎町の最新の高齢化率は、県下4位の48.9%。平成27年から令和2年の人口減少率も11.7%と県下5位となっている。人口を増やすのが一番だが、まずは、松崎町と関わる関係人口を増やしていかなければならないと考えるがどうか。という質問に対してです。

関係人口の増加につきましては、議員のおっしゃる通りで人口減少が日本中で進み避けられない中で、移住・定住政策は当然実施してまいります。移住・定住は人の人生を左右する大きな決断が伴います。なかなか結果に結びつくのが難しい状況ではございます。

このため、まずは松崎町を知ってもらい、ファンになってもらう。関わりを持ってもらうという緩やかな関係を構築し、まちづくりに関わっていただける方を増やしていく必要があると考えております。令和2年7月に策定いたしました。第二期の松崎町総合戦略におきましても、目指すべき方向の一つとして、関係人口の強化を位置づけており、具体的な取り組みとしては、石部の棚田オーナー制度の発展、大学等連携事業、ふるさと納税の返礼品の活用、姉妹都市等交流のある自治体との連携、自然景観や温泉を活用した健康保養等を挙げております。この項目の事業全て同時に推進していくことは、なかなか難しいとは思いますが、大学連携等においては、現在、静岡大学と連携し2030松崎プロジェクトを実施しているところであり、丁寧の一つ一つ取り組んでいくことを進めてまいりたいと思っております。

②首都圏で活躍する松崎町出身者の方や、松崎町に興味がある方に、松崎町の現状を知ってもらい、繋がりを作るために首都圏で『松崎会』を開発して開催してはどうかという質問でございます。

ご提案の関係につきましては、隣町の西伊豆町、姉妹都市の帯広市においても同様のことを行っていることは承知しております。静岡県も県人会など、出身を縁とするこのような会は以前からございますが、関係人口を増やす上でも、今後事業実施については検討してまいりたいと考えております。

③賀茂・下田地域の方々の、松崎町への往来を促すきっかけとして、町営温泉依田之庄を町民料金で利用できるようにしてはどうかという質問でございます。

大沢温泉依田之庄の料金区分につきましては、西伊豆を含む町内と町外の二つに分かれてございます。鈴木議員からは、利用者数の伸び悩みを改善するために、今回ご提案の話を以前から伺っており、町の内部では検討はさせていただいておりますが、現在のところは難しいのではないかと考えております。

依田之庄につきましては、同じ大沢地区にある民間の温泉施設を圧迫しないような料金設定としており、そのあたりを考慮する必要がございますし、入浴料を安くすることは、利用客が伸びない場合は収入の減少となることも考えなければなりません。

現在、常連のお客様に対しては、回数券で割引といったことも行っておりますので、もう少し利用状況を見ながら、どのような形で収支改善に結びつけていくか検討したいと考えております。

大きい3コロナ対策について。

①18歳以下の10万円給付について、5万円分はクーポン券か現金にするか自治体に任される方向だがどのように考えているのか。という質問でございます。

子育て世代の臨時特別給付については、国の方針がめまぐるしく変更となり、最終的には現金5万円とクーポン5万円相当の2段階で給付、5万円を先行給付し追加で現金5万円を給付する、現金10万円を一括給付の三つの方法から、地域の実情に応じて自治体が判断して選択することと最終的には決定しました。

当町では、この方針が示される前に5万円の先行給付の通知をいち早く発送しており、この通知により、すでに中学生以下の児童手当を受給される方については、12月24日、本日給付ができるようになっております。

仮に10万円の一括給付に変更した場合、予算の確保をはじめ、要綱の改正や修正した通知の送付、受給拒否の届け出書の提出期間の設定、さらに金融機関への取りまとめの期間を考えると、年内の寄付が困難であると判断をさせていただきました。

またクーポンでの給付については、クーポン券の印刷や利用できる店舗の登録など経費と時間がかかりすぎ事務も煩雑となるため、クーポンでの給付は全く考えておりません。このため、残りの5万円は現金によりまして、年明けのできるだけ早い時期に給付できるよう進めてまいる予定でございますのでご了承いただきたいと思います。

②番、今後も経済対策として、プレミアム商品券などを発行していく必要があると思うが、事務費や経費を削減でき支給までのスピードも早い地域通貨を検討していく考えはあるか。という質問でございます。

国の臨時交付金の追加候補が予定されており、プレミアム商品券事業については、新型コロナ対策の事業所支援の一つとして検討すべきではないかと考えております。地域通貨の検討につきましては、以前から田中議員やその他の方からもお話を伺っており、西伊豆町の状況確認や、松崎町商工会とも相談をさせていただいておるところでございますが、商工会か

らは、運営費が高額であることや、受け入れる店舗が高齢化により対応ができないといった声もあり、難しいと伺っております。従って現状での導入は、まだハードルが高く困難であると考えてございます。

(教育長 佐藤みつほ君 登壇)

○教育長(佐藤みつほ君) それでは続いてコロナ対策について、児童の給食や部活動においてコロナ対策をしているが、いつまで継続しどのような条件で解除するのかという質問でございます。お答えいたします。

現在、小学校、中学校とも給食時に空き教室を利用し、密にならないようにする。黙食で飛沫が飛ばないようにするなどの感染予防対策を講じております。

最近の状況としまして、静岡県の感染レベルは1であり、全国的に感染が落ち着いています。静岡市や富士市の小学校ではクラスターが発生したことやオミクロン株の出現などにより、今後第6波の感染拡大も心配されるため、これからも当分の間は、部活動や休職時の対策も含め、学校生活の中で基本的な感染予防対策を継続していきたいと考えております。

今後の解除の条件につきましては、静岡県の感染レベル、県教育委員会から、県立学校に出される学校の新しい生活様式、賀茂地区や西豆地区の状況、また子供たちの今後のワクチン接種や治療薬の動向など様々な状況を総合的に判断していく必要があると考えております。

次にマスクをつけることでお互いの表情が見えず、表情によって感情を察知する力やコミュニケーション能力構築に影響があるとも言われています。表情の見える透明なマウスシールドなどを支給していたらどうかという質問でございます。お答えします。

飛沫防止対策として、マウスシールドやフェイスシールドは効果があると言われておりますが、感染予防対策としましてはマスク、特に不織布のマスクが最も効果があると言われております。

議員がおっしゃる通り、マスクをすることでなかなか相手の表情がわかりにくいところがありますが、現在は子供たちの安全を第一と考えますので、まずは感染防止を目的とするところでマスクを推奨していきたいと考えております。今後、一刻も早くコロナウイルスによる感染症が収束し、マスクを外してお互いが対面で会話ができるようになることを望んでおります。

以上でございます。

○2番（鈴木茂孝君） 一問一答でお願いします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○2番（鈴木茂孝君） それでは質問させていただきます。

質問は限られた時間ですので、回答は簡潔にお願いしたいと思います。

まず、岩科診療所についてでございます。

先ほど、高柳議員の一般質問において、傍聴席から「町民の声を聞いてほしい」という声がありました。

作ってほしいという声がある一方で、このようなデータもございます。

11月30日ですね。静岡新聞が町長選で、出口調査の際に岩科診療所についてアンケートを行っています。この結果といたしますのが、必要性、つまり『いるかどうかから再検討する』のが33%、『場所を再検討』が25%。『回答者の回答者の6割が、この計画の見直しを求めている』という結果になります。

町長としてこれをどう受け止めていますか、ご答弁をお願いいたします。

○町長（深澤準弥君） 私も新聞記事を拝見させていただきまして、やはり丁寧に住民の声を吸い上げていくと。先ほども1人の方が声を上げられていましたが、声なき声を聞くとよく為政者言いますが、そのやり方をしっかりと踏まえながら進めてまいりたいと思っております。

○2番（鈴木茂孝君） 私も岩科地区を地元とする議員ですから、財政が豊かであればぜひ作っていただきたいと、そう思っておりますが、やはり人口減やかかるコストなどを考慮しますと、次の世代に負の遺産を残してしまうかも知れないというふうなことを考えております。現在、議会では、協定書が結ばれていない段階で次のステップへすべきではないということで、実は議論が止まっている状態になります。

このような状況で、今後、どのような体制で議論を進めていくお考えですか。

民意をしっかりと把握するために、検討委員会等を作るお考えはありますか。

○町長（深澤準弥君） まずは、どういった医療が本当に必要なのかを把握する必要があると思っております。先ほどの現状をしっかりと把握し、その上で次のステップに・・・ということを経験の方々もご教示いただいている中ですので、そういったものを踏まえながら進めてまいりたいと思っております。

検討委員会等につきましても、やはりその準備段階において必要であればやはりしっかりと

と立てる必要あるかなとは考えております。

○2番（鈴木茂孝君） 町民、特にですね岩科地区の住民にとっては、前町長がかなりまめにですね診療所を作るというお話をされたこともありまして、期待してる方もかなり多かったというふうに思います。必要があれば、開くということではなくて、やはり計画を見直す理由であったり、そして町としてこの診療所を作らなければ、どのような形で医療を岩科の地域の方に担保というか、していくのかということも説明する必要があると思いますので、ぜひその辺はしっかりして説明会を開いていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○町長（深澤準弥君） こちらのお考えを伝えるという意味では検討委員会等ではなく、今言った住民へ対する周知というのは、考えていきたいと思っております。

特に今議員がおっしゃった通り、岩科の方々は期待する方も多かったという話も伺ってますし、さっきのアンケートの結果もございますので、そういったものを踏まえた上でいろいろ進めてまいりたいと思います。

○2番（鈴木茂孝君） 先ほど『診療所の必要性から見直しますよ』ということでしたけども、所信表明で述べられた『地域看護』というのは、具体的にどのような形の医療を考えてられるでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 自分の中で考えているのはやはりまず訪問看護、訪問医療は今診療所の、今ある診療所の医師の先生がたも行っていただけてますし、隣、西伊豆にある病院のであったり診療所だったりからも実は訪問でやっていただけてるっていうのを伺っています。

大元となるそういった医療機関の方々に伺っても、だんだんとそういう方向にシフトしていく可能性が、IT化も含めあるということは伺ってますので、今日も伊豆医療のを先ほど申し上げました、記事の関係もございましてあいつものをイメージとしております。ただ、やはり医師が少ないということで、できればその医師、先ほど申し上げました通り医師でなくても、ある程度日常的なものについては、看護師とか介護との連携っていうのもお話が出てますので、そういったものを使ってできるだけ不安を取り除けるような医療体制の構築を目指したいと考えております。

○2番（鈴木茂孝君） やはり診療所計画がなくなるということになると、地域としては非常に不安を医療に抱えるということになります。

一つの例として参考事例をちょっとあげたいと思うんですが、隣の西伊豆町の大沢里地区または南伊豆町の伊浜地区などでは、お医者さんが出向いて巡回の健康相談ということを月に1回やっております。そこでは公民館を利用して来た方の相談を受け付ける。そして、病院

に行く必要があれば、病院に言ってくださいねという話をするというようなことがあります。

特に大沢里の地区については、僻地医療施設運営等事業という国の補助金で運営していることで、ほぼ負担がないということですが、松崎町ではその補助は出ないかもしれませんけれども、今回その診療所の建築費や赤字であれば補填もしてというようなコストを考えますと、費用対効果としては、その方がいいんじゃないかなというふうなことも思われます。

西伊豆の医療関係者に私は聞きに行きました。「こういうことをもし松崎町が望むのであればできるんでしょうか」という話をしましたが、検討してもいいですよという話をいただいております。

地域の公民館をお医者さんが、月に1回回るような形であれば地域住民にとって、こんなに心強いことはないと思います。また病気を未然に防ぐことで、医療費の削減もできるかもしれません。これをぜひ検討してみたいかと思いますが。

○町長（深澤準弥君） 大変参考になるご意見でございます。私も実は伊浜が母の出身でして、そっちの関係もあるものですから、そちらの大変な現状はしばらく前から把握してございます。

今の訪問診療というか、公民館への医療、医師の派遣というのは非常に心強いかなと思いますが、その以前での例えば相談であれば、例えば医師でなくてもいいときも必ずありますので、そういったものを相対的に勘案しながら、今言ったようなことを進めていけるのがよろしいかなと思いますので、またいろいろとそれについては議論をさせて、ご教示いただきながら進めてまいりたいと思いますのでお願いします。

○2番（鈴木茂孝君） それでは次です。関係人口を増やす施策についてお聞きします。

なぜ関係人口を増やさなきゃならないのかということですが、これには先ほど壇上で述べましたように人口の急激な減少というのがあります。

出生数につきましては、先ほどおっしゃられた通り一昨年は9名。そして昨年は13名。非常に少ない状態にあります。この段階で人口を増やすには、やはり外から移住していただくということをしていかないとはいけませんが、移住者というのは急に増えるものじゃなくて、まずは、松崎町に関わる関係人口を増やしていくということが必要です。首都圏で活躍する松崎町出身者であったり、首都圏に住む松崎町に関心のある方たちを集めて、『松崎会』というのをぜひ開いていただきたいなというふうに思います。

西伊豆町ですけれども、そこから西伊豆の物産を扱う会社なども立ち上がったのかなという

ふうに思いますし、いろんな私たちは地元の方にはないアイデアを思っただけのことがありますし、人脈もありますのでぜひ東京で開催していただきたいというふうに思っております。

それと同時に地元ですね。賀茂地区の近隣の方々との結びつきというのも重要です。特にもしコロナが広まった場合には、遠くから呼ぶということがなかなかなくなりますので、できませんので、地元の方はいかに松崎町に来ていただくかということが重要になります。その提案としまして、先ほど言いました温泉施設を町民料金にしましょうということなんですけど、今朝のですね朝刊にこういうのが入ってました。（新聞の折り込みチラシを提示）これは、東伊豆町の施策なんですけども、賀茂地域の方、東伊豆町に止まったら1人当たり5000円宿泊を割引しますよというようなことで、これ非常に地元の方を東伊豆町のファンにするというような作戦というか施策だと思って非常にいいなと思います。

同じような考え方で、温泉料金を町民料金にして来ていただく。来ていただければ、ご飯も食べるしでしょうし、もしかしたら宿泊もしていただけるかもしれませんし、そして、賀茂郡の地区というのは高齢の方も多いので、高齢の方は平日に動けるという形の方が多いので、現在の町営温泉というのは、休日のお客が多いと思いますので、平日に動ければ平日は地元、そして休日は観光客という形で住み分けというのができるのかなと思います。

先ほど回答の中で、なかなか予算的に難しいという話でしたが、町営施設という考え方なんですけども、町営施設のみで黒字になれば一番いいんですけども、黒字にするのではなくて、そこに温泉があることで来ていただいて地域でお金を使っていただくというような、広告塔みたいな役割もあると思いますので、その辺は長い目で見てちょっと対応していただければなというふうに思います。

それから、その町営温泉を町民料金で開放するというようなことでもう一つ狙いがありまして、伊豆南部というのは、他にも大きなたくさん多くの温泉があります。伊豆南部の町営や市営の温泉をそれぞれの方の住民料金で利用できたら、かなりの人が動いて各市町に経済効果が出てくるのではないかなというふうに思います。

まずは、松崎町がそういう形で賀茂地区に開放して、そして他の地区にもぜひ自分の市町の住民料金だけでなく、他の市町にもそれを広げてほしいということをやっていくと、地域の活性化になるんじゃないかなと思うんですけども。

それを検討してみたいかどうでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 今おっしゃる事はその通りだと思います。いろんな形で賀茂圏域の人を動かすというのは非常に有効だと思っております。その前にバイシズオカというのがありまして、県内の人の流動というようなこともありますので、よりエリアを絞った中で賀茂地域というのは大変有効かなと考えます。

ただ温泉料金すぐさま動かすというのがなかなか反応ができないところもございまして、やはりマーケットをしっかりと把握しながら、先ほども出た東伊豆の例につきますと、それ観光協会が主体でやっております。うちの方も一応今回そういったことも観光協会の中では話題に上がってるということですので、こないだ、先日ですけども新聞の方で観光協会と商工会とのもっと風通しの良い連携を図りたいという話をさせていただいたので、その中でいろいろまた議論させていただければと考えております。

○2番（鈴木茂孝君） これはですね、関係人口の増加にもつながると思うんですね。伊豆南部に来れば、伊豆南部に移住すれば、地域の住民料金でいろんな風呂に入れるよっていうのは、首都圏や他の方の移住したい方々にとっては、かなり魅力的に映る施策じゃないかと思っておりますので、その辺も勘案してぜひ松崎町が音頭をとって、やっていただければなというふうに考えております。

それでは三つ目ですね、コロナ対策になります。

18歳以下の臨時給付、特別給付金についてですけども、これは本来は元々はですね、住民税非課税世帯への10万円っていうのが最初に出た話で、それからその18歳以下の臨時給付金が現金なのかクーポンかということでかなりマスコミが騒いで、そちらの方に比重が行ってしまったような感じはするんですが、実際には住民税非課税の方々っていうのを・・・非常に年内に年が越せるか越せないかという方もいらっしゃると思っておりますので、その辺がなかなか年内に支給できなかったという理由をお聞かせ願いますか。

○企画観光課長（八木保久君） 非課税世帯の10万円の給付につきましては、国の補正予算が最近通りまして、それから順次詳細な説明といいますか諸制度設計がこちらに示されている状況でございます。そういった中で先に子育て世帯の臨時給付金の方が枠の中で方向性が示されたものですから、そちらの方が先に通ってるということでございます。こちらの定例会の最終日の終わった後に全協をちょっとお願いしてるんですけども、その中でですね、非課税世帯の10万円の給付につきましては、なるべく速やかに交付したいということで、専決という形をお願いできないかということで考えております。

ですので、そちらまたその際に説明させていただきたいと思っております。

○2番（鈴木茂孝君） それでは経済対策の方へ参ります。

地域通貨についてちょっとお聞きしたいんですけども。隣の西伊豆町ですね。ご存知の通り、サンセットコインという地域通貨を使っております。これがですね、費用というのは開始時にはスマホなど機器代が500万円。通信費が400万円。カード作成費7600名分で100万円ほどかかっているというお話です。そしてスタート時には、130店舗でスタートしました。現在は138店舗ということで、それほど変わってはいないということです。

現在ですね、先ほど言われたように、維持費が高額という話がありましたが、維持費はですねだいたい281万円。最大ですね。掛かっているという話です。最大という言いますのは、ある通信会社等を契約し、138件×年間12ヶ月って形でやってるんですが、最近はお店の方でW i - F i を持ってる方が増えてまして、そうすると自分の方のW i - F i でやるから通信料はかかりませんということで、いいですよという話になってきておりまして、年々その通信費の維持費というのが減ってきてるといような状態にあるというお話ですので、これはなかなかやってもひよっとしていいんじゃないかなというふうに思います。特にトラブルはないという話も聞いております。

地域通貨の大きな特徴としまして、これは全て地域内で消費されるということです。仮に、今回の18歳以下の給付は、クーポンですよっていうふうに決まった場合にもサンセットコインに、サンセットカードに5万円の入金をスピーディーにすることで特に混乱もなく、もしそういうのがあればですね、終わるといようなこともありますので、やはり松崎町職員の方が少なくて負担が多い、事務費の、事務の負担が多いというところもありますので、そういう面からもぜひ検討に値するんじゃないかというふうに思っております。

で、先日までですねサンセットコイン10%還元というのやっておりました。こうなりますと、町外の方や観光でみえられた方が10%の得するということであれば、そこでカードを購入して、そして使ってくれるということもありまして、先日の議会でも西伊豆町長は『外貨を獲得するんだ』というようにお話をされておりました。

やはり松崎町もなかなか税収が上がらない中で、外貨というかそういうものを獲得していく方法を一つでも多く手段として取るというのは、必要ではないかなというふうに思います。

先ほど、お答えにありましたけども、なかなか高齢化で難しいよっていうことは、ありますけれども、でも高齢の方でもスマホ使っている方はそこそこ多いと思いますので、その辺は丁寧に指導をしながら、なるべくそういうようなものにしていけば、職員の方々が助かっ

たりするんじゃないかなと思いますけれども。いかがでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 今言ってる地域通貨についてもそうですし、スマホの普及についても、やはりどんどんこれからデジタルトランスフォーメーション進んでまいります。デジタル庁もでき、県の方もデジタル戦略化というものが準備されておりますので、その中で主たる目的はやはり『住民の生活を豊かにするためのデジタル化』というのが果たされなければいけないので、その部分はしっかりと進めてまいりたいとは思っておりますが、早急に何かここで返事をするということはなかなかできかねるものですから。今言ったデジタルの利益をしっかりと享受できるような体制作りも必要ですし、今の地域通貨についても、町が旗を振ってもなかなかやる方が縦に首を振らないといったようなこともございまして、その辺のメリットをですね、しっかりと共有をしながら進めていく必要があるかと思っておりますので、その辺また進めないわけではないので、やり方をいろいろ検討する必要あると思いますが、DXは進めてまいりますので、はい。

○2番（鈴木茂孝君） これは時代の流れといいますか、もうそういうふうな方向に向かっていくということで、ぜひ商工会の会長さんとかね、その辺に話をしながら、できれば商工会の中で検討委員会というか、そういうものを作っていたりとかして、実際に実現に向けて進んでいただければなというふうには思っております。

それから、子供たちへのコロナ対策についてお聞きします。

確かに最近、オミクロン株が騒がれておりますけれども、伊豆地域の感染者というのはゼロの日が多くなっております。昨日も静岡県内はゼロでした。県の警戒レベルも先ほど教育長がおっしゃられたように、レベル1ということで『維持すべきレベル』というふうになっております。

大人は、飲食についてはかなり感染対策をした上ではありますけれども、制限というのはあまりなくなってきました。しかし依然として、子供たちは給食は前を向いて黙食をするというような状態です。

リスクを言えばきりがありませんけれども、子供たちのためにもできるだけ早く通常の状態に近い状態に戻していくんだというようなことで、やればいいのかと思うんですけれども。その辺はいかがお考えでしょうか。

○教育長（佐藤みつほ君） 今の現状っていうですかね、現実をまず子供たちの現実、それから世を騒がしている新種株など、このことについては注目を集めているわけです。その中でやっぱり安心安全か、それから表情か、っていうようなことがあると思うんです。両方の観

点から私達やっぱり考えていく必要が今後あると思います。それには今実は、中北薬品さんと市町の連携を結んでいる関係があるものですから、相談しながら今その、私もなんていうんすか、今のフェイスガード、そのあれをつけてみようと思っています。そして、あるいは局長や私、それから学校関係者それから子供たちにも一応をつけて見ながら、一応実験してみることも必要だなって考えています。

やっぱり表情を豊かにするためには、そういう方法もあります。一方では、マスクをしていても、心から表現できる、例えば目で話ができるとか、なんかそういうようなことも一つはこの機会を設けて勉強することかなってということも、実は職員と面談をしているときに、「子供たちの様子どう」ってよく聞きながら見回りにも行くんですけども、そうしたときに、「こういう状況だからこそ、表情を体いっぱい表したりとか、目と目で話をしたりとか、私はそのために今までと同じように頬を上げる練習をマスクをしてしているんです」なんていう先生もおられました。

ですから両方の観点で、今どちらが重要かということを常に考えながら、そして新しい傾向のものがあればそれに従って実験してみる。やってみる、そして学校の現実としては子供たちがどういう動きをするのか、先生方としてはどうなのかということなど、給食および部活動考えて行動していきたいと思っています。

以上です。

○教育委員会事務局長（齋藤 聡君） コロナウイルス禍の学校内の生活につきましては、先ほど教育長の答弁でもございました通り、学校の新しい生活様式というものが文部科学省の方から町の方に届いております。で、今現在11月22日に発行されたバージョン7、こちらに12月10日に一部改正がされておりますが、その中に学校内での生活につきまして、やはり『マスクを推奨します』というようなこと、それと『給食においても机を向かい合わせにしない』ですとか『大声での会話を控える』などというような対応が必要ですよというようなことが記載されております。

議員おっしゃられました通り、今現在県のレベルはかなり低いわけですが、やはり学校の方といたしますと、子供の安全を守るのが一番というようなことでも考えていると思いますので、私どもといたしましても、学校にそちらの方の判断、こちらの方で文科省の方で新しい指針が出されてるわけですが、やはり現場のお声を重視していきたいなというふうには考えております。

○2番（鈴木茂孝君） 今のお話ですが、それがですね『学校における新型コロナウイルス感

染症に関する衛生管理マニュアル』というやつだと思うんですけども、今事務局長がおっしゃられたのは45ページぐらいの話なのかなと思いますが、実はそれ続きがありまして51ページですね。レベル1に対してはどういうことをしなさいということで書いてありまして。レベル1に関しては『通常の学校給食の提供方法を開始します』というふうなことが書いてあります。ですからこれにのっとって、やはり、以前の状態に少しでも近づけるような努力をしていかなければならないというふうに思います。

例えばですね、こういうようなついたてというか、アクリル板ですね。こういうもので、あとは透明なマスクということで、こういうものもございますので、これも1枚50円しないぐらいのものですから、そういうものをなるべく駆使しながら、松崎町としてはコロナが終息に向かって行くのに合わせて少しずつ普段の生活に戻していきますよというな、メッセージをですね、ぜひ発信していただきたいと。これはですね、子供たちに対してエールになったりしていくんじゃないかと。やはり、明確な基準を持って「駄目ですよ」「いいですよ」という形していかないと、なんとなくオミクロン株が広がっているから、「これは駄目」「あれは駄目」ではなくて、やはりリスクを多少は承知しながらも、しかしそれを父兄の方にはしっかり説明した上で、やっていくということが必要ではないかというふうに思います。

すいません延長で、お願いします。

(○渡辺文彦議長 許可します。)

はい。

この、20, 21, 22ですか。修学旅行に子供たちも行くことができました。

これも先生たちが、『こういう状況だけでも、思い出になることなので連れて行きましょう』ということで、判断して下さったのかなということで、非常に多くの父兄は感謝していると思います。

大人の『何かあったら責任を取らなきゃいけない』という保身の考えですね、子供たちに多くの犠牲を強いてしまうような状態になっております。なるべくそれをですね、しないためにはしっかりとした指針、例えばレベル1だけだからここまで、レベル2だからもう少し厳重にやろうねっていうような形で、臨機応変にですね。先ほど言われたように小さい町ですから、臨機応変にやっていただければなというふうに思うんですけども。

町長この件についていかがお考えでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 今修学旅行の話が出たんですけども、まさにそういったところが大人の都合で、かなり子供たち我慢してるというような結果がデータでも出てます。ただ、や

やはり公という中で考えたときには、いろいろその場で簡単な判断をすることがなかなかできかねますので、やはり現状の把握、そしてリスク回避、そしてその先にあるものもしっかりと議論しながら、決定をしていく必要があると思っております。

ただ先ほども議員の方からもお話があった通り、周りの状況を把握する、そのレベルをしっかりと自分なりにこの地域で持つというのは必要だと思いますので、その辺の判断基準をしっかりと中で議論していく必要があると思っておりますが、できる限り今言ったような方向でやはり子供たちのことを第一に考えるというようなことで、双方の意見を吸い上げながら進めていく形が理想かと思えます。

○2番（鈴木茂孝君） やっぱ子供たちも順応性が高いので、マスクをつけることが当たり前になってしまって、マスクを外すのが怖いというような子供たちもちらほら出てきているというようなこともありまして、文科省のを基準ですね、基準ではもう普通の生活をしてもいいというレベルになっていますから、その辺をお考えのうえ、やはり学校とも当然ね、やんなきゃいけないことがありますけれども、なるべく普通の生活に戻していく方向に舵を切っていくというようなことで、もしその今騒がれてるオミクロン株が、例えば、三島とか沼津とかで出始めたら、これはちょっと危ないねということでもう少し戻していくような形で、こまめに対策をしていく方向に変えればと思うんですけども、いかがお考えでしょうか教育長。

○教育長（佐藤みつほ君） そうですね。『こまめにする』ということ、大事なことだと思います。

いろいろな選択肢、教育にもいろいろな選択肢がございます。いろいろな人の意見を聞くこと、世界、日本の情勢をつかむこと、それから学校のまずは実態を握ること、そして私達が出来たら何でも知ってること、というようなことがたくさんありますので、今回のことにつきましても表情を取るか、表現力っていうですかね。顔の表情ということを議員を気にしておられます。一方では、やはり私たちにとって、大事な子供さんたちを預かっていますので、安心・安全が第一かなっていうところ、今の状況があります。ですが、子供っていうことも常に考えますので、柔軟性を持ちながらも油断なく詰めていきたいと思っております。

いろいろ子供のことを気にしてくださいまして、本当にありがたいです。

いつも教育委員会の方に来てくださったり、あるいは学校に行ってくださいたりする議員さんの姿を見ていて、とても私達も前に行くぞという気持ちで頑張っていますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○2番（鈴木茂孝君） そこでもう一押しというか、ぜひこのマウスシールドですね、安価な

ものですので、これは簡単につけることができますので、こういう感じで付けられますので、私これをねやっていたらなというふうに思います。

あと幼稚園の子供なんかも、やはり不自由というか、小さい頃からそういうふうにとやると表情を見ることができなくなってしまう大人になる可能性もありますので、幼稚園の方もぜひ気にかけていただいて、回っていただければというふうに思います。

それではまとめます。

診療所ですね、今後どの様にしていくかということで、今後の検討の仕方とか方向性をきちんと示した説明会をぜひお願いしたいということ。

それから、お医者さんが地域を回って健康相談をしていくというような医療のあり方というの、検討していく必要があるのではないかなと思います。

それから、関係人口を増やすということで、東京で松崎出身で活躍されている方、松崎の町に興味を持ってくださる方を集めたり、それ『松崎会』というのを開催してはいかがでしょうか。

それから、賀茂地区の方が、なるべく松崎町に来て松崎町の良さを知ってもらうために、住民料金で温泉が入れるというようなことも大変でしょうけども考えていただければ、先ほどどれくらいお金が減るかわからないという話もありましたけれども、このコロナで多分『住所』というのを書いていただいていると思いますので、その辺どこから来たかというのはわかるので、例えばこの人たちが住民料金になったら、これくらい収入が減るよねっていうことは多分計算すればわかってくると思いますので。それを確保した上で、やはり長期的には来てもらった方がいいよねっていうような結論にさせていただければなというふうに思っております。

それから、地域通貨ですけども、なかなか最初のハードルというのはやはり高くて、最初にやる方はすごく大変ですけども、後々入れてよかったねっていうな形にできるような形でやっていただければなというふうに思っております。

それから、子供たちの給食ですけども、透明マスクやそれからアクリル板ももし必要であれば導入しながら、ポストコロナに向けて少しずつ元に戻していくようなことをしてはかがかということをご提案しまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（渡辺文彦君） 以上で、鈴木重孝くんの一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

2時5分まで、

(午後 1 時 5 3 分)

---